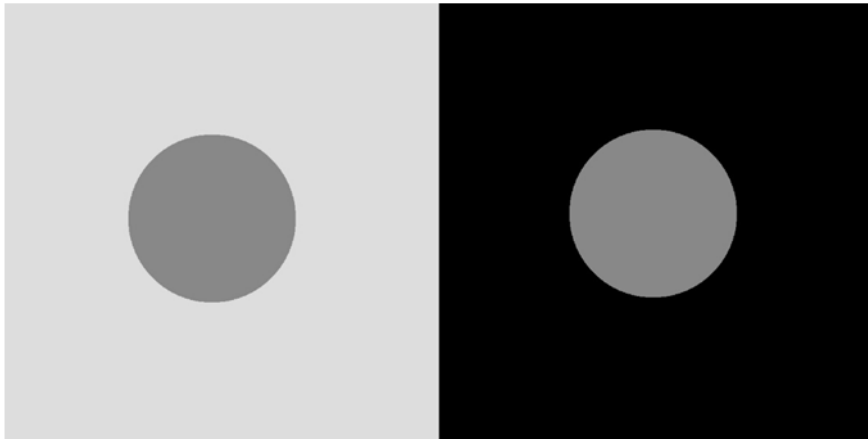
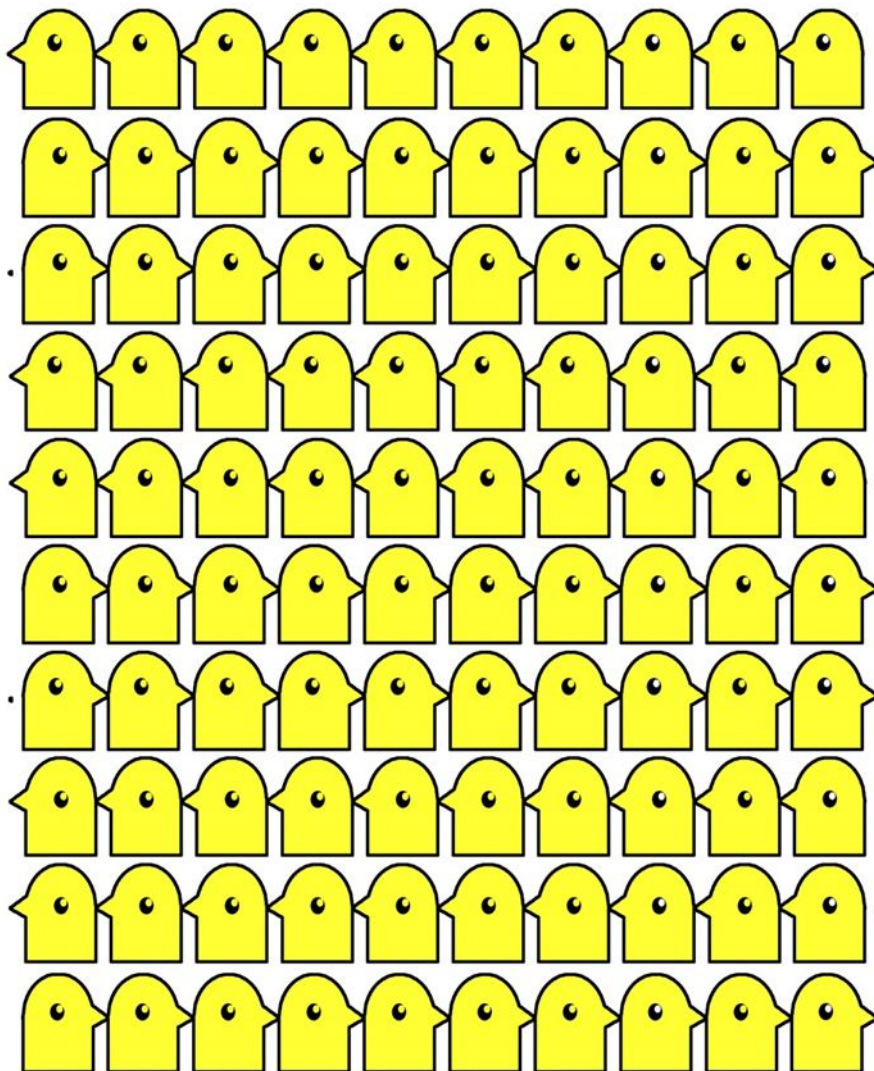


「ゆれるヒヨコの大軍団」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋



まずは上のイラストを見ていただきたい。左右の円形の部分、どちらが明るい色に見えるだろうか？ほとんどの方は右のほうが明るく見えるはずである。しかし、実際は同じ明るさ（グレイ・スケール）である。そう説明されても、ちがう明るさに見えてしまう。これは、一般に「目の錯覚」と呼ばれる。「錯視」という表現もある。「錯視」は、正確には「目の錯覚」ではなく、脳が色や形を誤って認識した状態と言える。



「錯視」は色や形の認識を誤らせるだけでなく、特定の図形やその並び方によっては、本来静止している画像が、動いて見えることすらある。私はそんなイラストを作るのが好きで、いくつかの「錯視画」の制作に挑戦してみた。

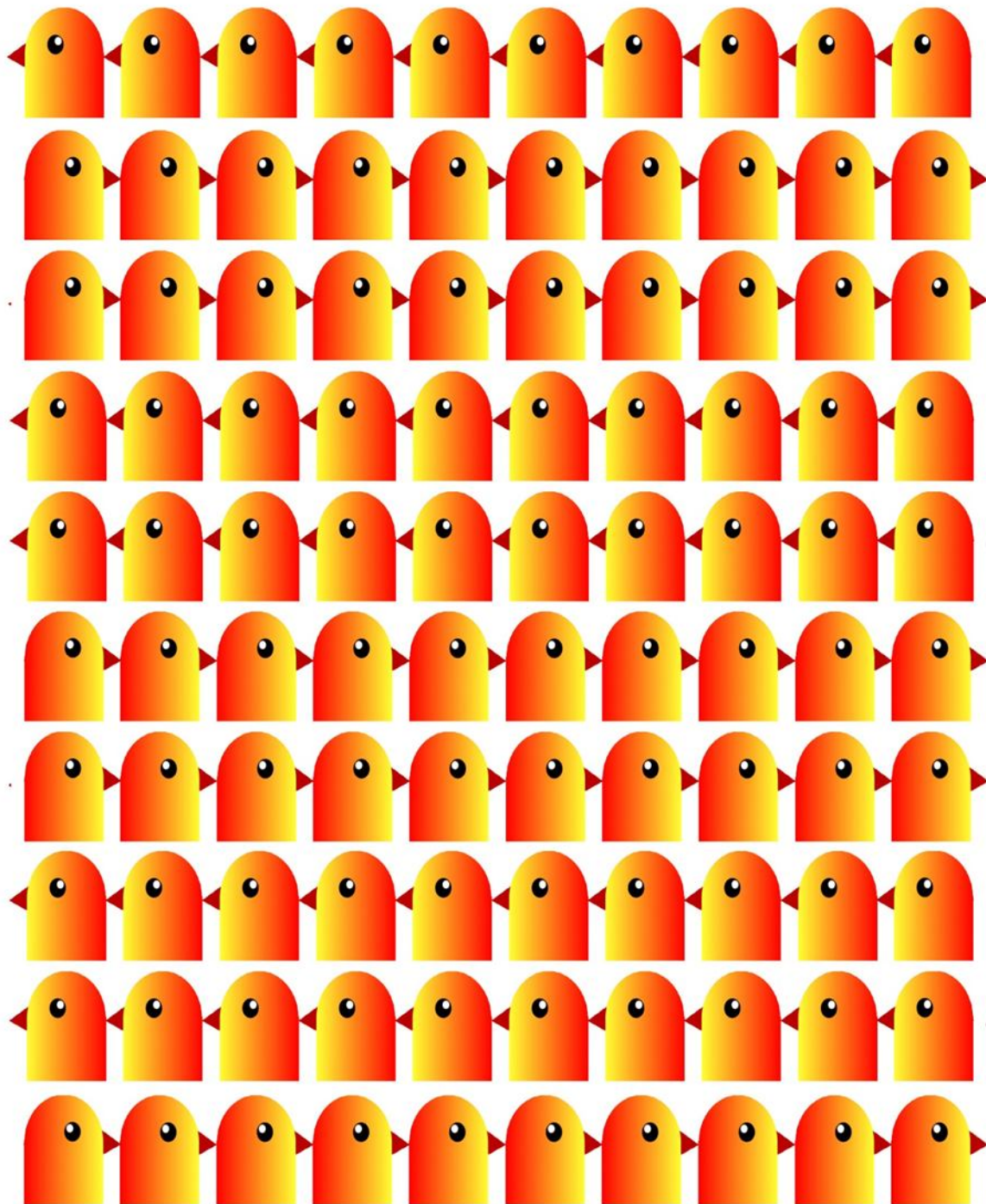
まずは、左の画像をよく見ていただきたい。黄色いヒヨコが整然と並んでいる、つまらないイラストだ。よく見ると、顔の向きが2段ごとに変えてあることに気づかれるだろう。この画像をコンピュータの画面上でじっと見ていると、不思議な感覚に気づく。見る人にもよるが、以下のような現象が現れるはずである。

- ①一部のヒヨコの色が、薄く見える。
- ②画全体が、膨らんだり縮んだりして見える。
- ③突然、一部のヒヨコが浮き上がって見える。
- ④突然、画全体がブルッと動く。

(2 ページ目に続く)

これらは、同じような形のものが、規則正しく並んでいる画像特有の、錯視の一種である。実際はヒヨコの色も大きさもすべて同じで、脳が一時的に画に騙されて起きる現象だ。

では、下のイラストはどうだろう？前のページのヒヨコと並び方は全く同じだが、着色のしかたを工夫してある。イラストをディスプレイ中央に持ってきて、視線をゆっくりと上下にずらしながら眺めてほしい。きっと、ヒヨコたちが、ユラユラとゆれて見えるはずである。



「ゆれるヒヨコの大軍団」 CG 作成 ; C. Tanaka

これはPC上のGIFアニメーションや、動画の埋め込みではなく、静止画である。その証拠に、この画像をプリントアウトして紙の上で見ても、同じ現象が起きる。「錯視」には、ほかにもさまざまな種類（パターン）が存在する。少し研究してみようと思う。